

閉 校 式 式 辞

(定時制 平成24年2月25日)

向学の血潮にたぎる熱き思いを込め、あるいは、青春の憂鬱を心に秘めて通った美しい飯盛野の丘から、長きにわたって地域の願いや期待に応えてきた兵庫県立北条高等学校定時制の幕を閉じる日がやってきました。

平素から本校教育に深いご理解とご支援・ご協力をお寄せいただいております加西市市長 西村 和平 様 兵庫県高等学校定時制通信制教育振興会会長 南光 正敬 様 兵庫県立高等学校長協会副会長 村山 美生 様 をはじめ、多くのご来賓の皆様、関係高等学校・中学校の校長先生方・諸先生方、さらには本校の学校評議員様、旧職員・卒業生の皆様ならびに保護者の皆様には、本校定時制課程最後のセレモニーに、ご臨席を賜りましたこと、心から厚く御礼申し上げます。

さて、定時制課程の歴史ではありますが、昭和23年9月1日 兵庫県立北条高等学校と兵庫県立北条農業高等学校が統合されて、兵庫県立北条高等学校となりました。これが現在の北条高等学校の「誕生」です。そして、昭和25年4月25日、定時制課程を設置、九会分校、在田分校の2分校も同時に設置されました。本校は、昭和26年12月24日 現在地の新校舎完成により移転、昭和29年3月31日 九会分校は中心校に統合、昭和30年4月1日 在田分校は泉分校と校名を変更し、昭和50年3月31日の閉校まで歴史を刻みました。そして、この中心校も平成24年3月31日をもって61年の歴史を閉じることになりました。

戦後の混乱期、勉学に燃える若者とそれを支える地域の人々によって定時制課程がスタートしました。十分な衣食住が整備されない環境にあって昼間の仕事を終え、夜間、学校で学ぶことは大変な苦勞でした。しかし、その苦勞が地元の産業を支えたのです。また、青野原病院の准看護婦（現在は准看護師ですが当時は准看護婦でした。）さんたちが看護婦を目指したさらなる向学心は教育活動を熱くしました。

閉校の決定以来、年ごとに、生徒数、職員数は減少しましたが、「最後まで、活気を失わず、元気な学校生活を送ろう！！」をスローガンに、様々な教育活動に取り組んでまいりました。特に、少人数だからこそできる、きめの細かい指導と、心のふれあいを大切にしてきました。

少人数でも楽しめる学校行事を工夫し、教職員も、ともに参加、汗を流しました。なかでも、市民ボランティアグループの皆さんとともに取り組んだ食事会やハイキング、カルタ大会などの親睦行事、学校周辺やバスロータリーの清掃などの地域貢献活動は、生徒の内面を大きく成長させてくれました。

平成23年度は、4名の数少ない生徒となり、学級経営も心配になりましたが、生徒は、自分たちの立場を良く理解し、頑張ってくれました。

閉校記念作品として生徒の手彫りによる校歌額作成のために、彫刻刀を手に何時間も木版に向かいました。

進路面では、経済不況の影響を受け、非常に厳しい就職状況の中、正規採用を目指して粘り強く努力し、多くの卒業生が地元企業で活躍してくれています。

定時制生徒の就業率が年々低下している中、本校のほとんどの生徒は何らかの形で働きながら通学しています。その忍耐と努力は敬意を払うに値するものです。疲れ切った体で、登校し、4時間の勉強に取り組むことは、経験した者でないと分からない大変な苦勞であったことでしょう。

最後になりましたが、定時制課程の発展にご尽力いただきました地域の関係機関、同窓会、保護者の皆様、そして最終年度まで丁寧なご指導をしていただきました教職員、PTAの皆様にお礼を申し上げますと共に、最後の最後まで努力を惜しまずにがんばり通した4名の卒業生を讃え、これからの健闘をお祈りしています。

平成24年2月25日

兵庫県立北条高等学校長

西 幹 博